



1. 街路：歩行者系



底のある直線的な歩行者通路

せっかく池と緑のある中庭に沿っているのに、生垣によってオープンスペースとの関係性を絶たれ、「眺める庭」になっている。

一体的な舗装を施し植栽の配置を変更することで、オープンスペースと一体となった、アメニティのある遊歩道となる。



幅の広い植栽帯を活かせていない、直線的な歩道



通路と植栽が、生垣と側溝によって分断されている



キャンパス中心部から離れたのどかな印象の歩道。舗装を変え、植栽のメンテナンスを行うだけで、より魅力が向上する。



キャンパス中央からの工学部へのアプローチ、ちょうどゲートになる部分であるが、駐車場の中を通過して、裏道を上がっていくような印象である。



広いオープンスペースに面しているのに、全く関係性をもたないコンクリート舗装の歩行者通路



食堂のオープンテラスと豊かな緑があり、賑わいとアメニティのポテンシャルが高いにも関わらず、アスファルト舗装と緑石、更に駐輪が魅力を損ねている



緑と遊歩道が一体化した魅力的な空間



通路と植栽の間に明確な境界がなく、緑をより身近に感じることができる



遊歩道として整備されているが、植栽のメンテナンスが行われていない



場所によってはほとんど手つかずで荒れた通路もある



2. 街路：自動車幹線系



歯学部系横の車道

メインストリートから入ってすぐの自動車道であるが、両側が駐車場になっていて並木もない。道路標示もはげている。

駐車場との緩やかな緩衝帯として、並木は不可欠な要素。魅力的な遊歩道を組み合わせて、人が快適に歩ける道にする必要がある



2列の並木の密度が高すぎて、鬱蒼とした印象を与える。交差点の舗装色が景観を損ねている



密に植わった緑が壁となり、道路と周辺の関係性が絶たれている



4車線並の大通りであるが、全体に閑散とした印象である。周辺建物との関係性を考慮した植栽配置を行い、アイキャッチや中央植栽帯などのアクセントを設ける必要がある。



シンボル性の高い建物がアイキャッチとなり、左側の豊かな緑はよく整備されている。また歩道の舗装も質の高いものを使っている。それだけに、右側の駐車場部分が未整備な印象が強調され、バランスを欠いている。



植栽や建物とのバランスがよく取れている並木道



開放性の高い並木と広場が道路と建物の関係を良好に保つ



正門としてのシンボル性が求められるアプローチ部分は常に質の高いメンテナンスが施されている。



一体的に整備された並木と正面の大木のアイキャッチがシンメトリーを強く感じさせる、非常に並木道らしい道路となっている。



3. 広場



人科系建物前のオープンスペース

正門からのアプローチがメインストリートと交わるコーナーに位置し、反対側には生命科学図書館のシンボル性の高い建物が建つ高ポテンシャルなオープンスペースであるにもかかわらず、周囲は生垣によって完全に閉ざされている。またオープンスペース自体も整備が十分でなく、魅力に乏しい空地となっている。

キャンパスイメージを印象づける重要なオープンスペースと位置づけ、メインストリートに開かれた、並木などと一体的な整備をはかる。またスペース内にモニュメントやアメニティ施設などを整備し、キャンパスの潤いを創出する。



キャンパス全体の中心、イメージの核、賑わいの核となるべき場所が駐車場として利用されている。



図書館と回廊に囲われた中庭だが、それらとの関係性は薄く、魅力に乏しい



ただでさえ暗くなりがちなピロティの広場が、掲示板に囲われより暗く、閉鎖的な印象になっている。



せっかくの彫刻や階段状の敷地形状が活かされていない。広場に面した飲食施設は生垣によって関係を絶たれている。また歩道との関係性も薄い。



工学部系の中では最も賑わいのある広場であるが、舗装・植栽配置・ストリートファニチャーといった広場を形成する各要素に一体的な調和が感じられず、キャンパスの主要な広場としては、魅力に乏しい。



新築されたGSE棟の大階段・デッキスペースの前が、臨時とはいえ駐輪場となっている。GSE棟のオープンスペースのコンセプトが全く活かされていない。



医学部のシンボル広場であるホスピタル・パーク



医学部の威厳を示す、前庭としての芝生。広場というよりは見せるための庭として機能している。



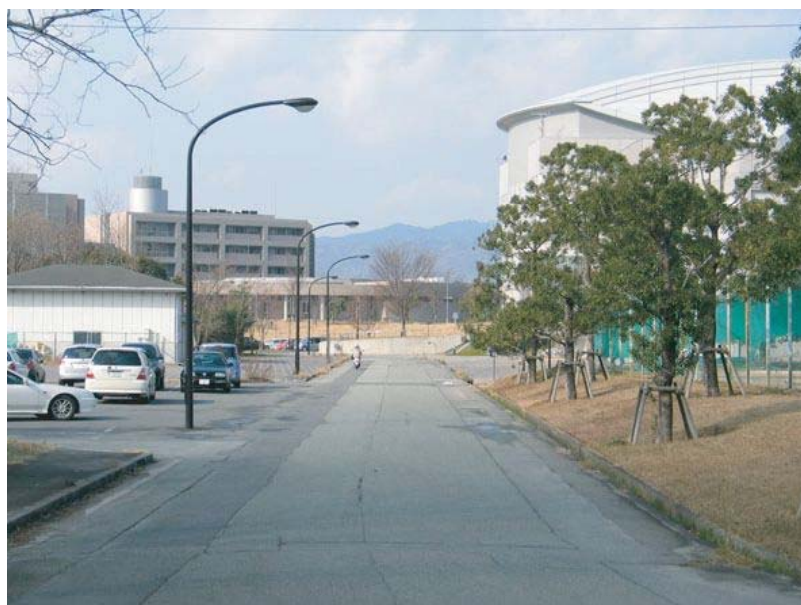
入り組んだ工学部の建物配置から生まれる中庭。植栽や舗装を工夫することで、変化に富んだ魅力的な広場とすることができる。



広い空地を用意しただけでは広場にはならない。



4. アイスストップとしての施設配置



キャンパス南東部の施設開発用地

この場所に計画される施設には、アプローチからのアイスストップとしての役割と周辺一帯の景観を統合する求心的なデザインが求められる



生命科学図書館が正門からのアプローチを受け止めるアイスストップとなっている



シンメトリー性の強い並木道を、歯学部建物が真正面から受けている。



上りのアプローチの正面という、アイスストップとして格好の位置に建つレーザー研の施設であるが、巨大な壁面が聳える魅力の乏しいものとなっている。



アプローチに対して正対していなくても、建物の形状やデザインによってはアイスストップとなりうる。

5. 建物の構え：工学部系の引き込むアプローチ

